

# 令和7年「いわて復興ウォッチャー調査」 結果報告

## 1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 151名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

### (2) 調査方法

郵送法（郵送による発送、返信用封筒による返送）

### (3) 調査対象時期

令和7年1月

### (4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感（被災者の生活の回復度及び直近1年間の進捗状況）

問2 地域経済の回復に対する実感（地域経済の回復度及び直近1年間の進捗状況）

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

（災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近1年間の進捗状況）

### (5) 回収結果

有効回収率 77.5% (117名/151名) <前回 83.4% (令和6年1月調査)>

### (6) 回答者の属性

#### ①性別

性別	人数	割合
男性	81	69.2%
女性	36	30.8%
不明	0	0.0%

#### ②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	39	33.3%
沿岸南部	78	66.7%
不明	0	0.0%

#### ③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	4	3.4%
40歳代	20	17.1%
50歳代	47	40.2%
60歳以上	46	39.3%
不明	0	0.0%

#### ④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	62	53.0%
被災なし	52	44.4%
不明	3	2.6%

#### ⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連（応急仮設住宅の自治会（入居当時）、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など）  
42名（35.9%）
- ・ 教育・福祉施設関連（小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など）  
33名（28.2%）
- ・ 産業・経済・雇用関連（漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など）  
42名（35.9%）

#### ■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近1年間の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、

沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

※ 「進んでいない」「あまり進んでいない」等の合計値は、小数点第2位以下を切り捨てた上で合計しています。

### 3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計は80.7%と、前回(84.0%)を3.3ポイント下回った。「あまり回復していない」「回復していない」の合計は1.8%と、前回(1.6%)を0.2ポイント上回った。

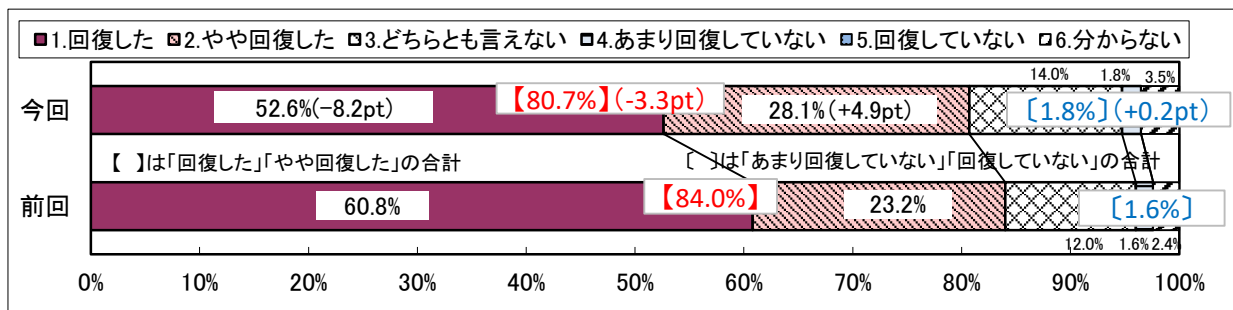
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部は41.0%と、前回(58.1%)を下回った。沿岸南部も58.7%と、前回(62.2%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部は76.9%、沿岸南部は82.7%とそれぞれ前回(北部81.4%、南部85.4%)を下回った。なお、沿岸北部と沿岸南部の差は5.8ポイントと、前回(4.0ポイント)から拡大した。

○直近1年の進捗状況を見ると、「進んでいる」が30.7%と、前回(36.3%)を5.6ポイント下回った。「進んでいる」「やや進んでいる」の合計も49.1%と前回(58.1%)を9.0ポイント下回った。

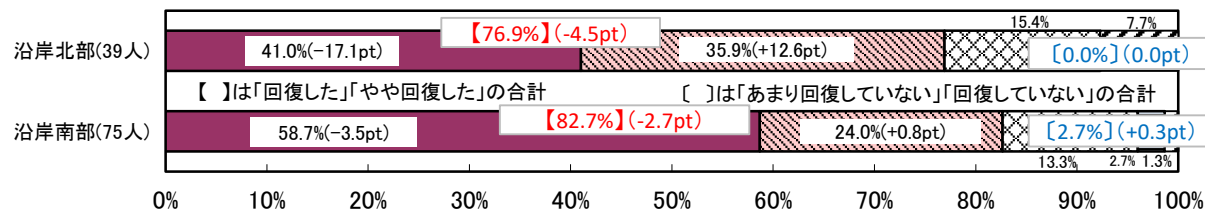
住宅の再建が進むとともに、交通網が整備されたことなどにより、利便性が向上し、生活が落ち着いてきたとする声がある一方で、新たな課題として人口減少や物価高騰への対策が必要であるという声があった。

#### ① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

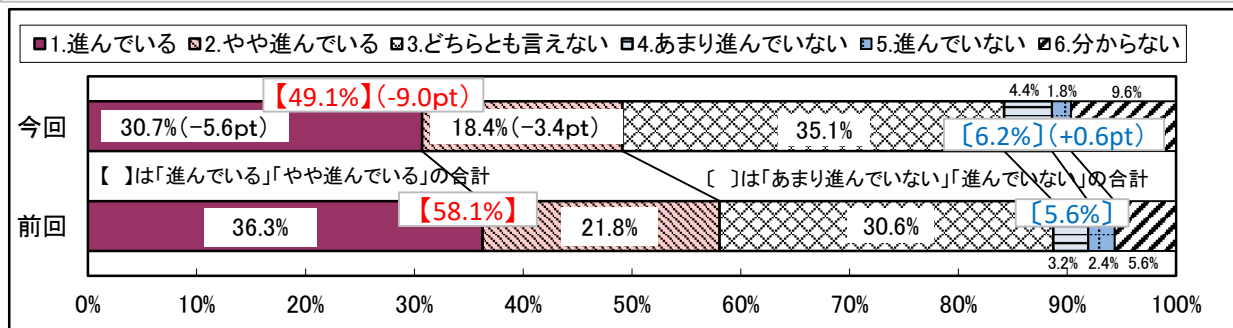


#### 地域別

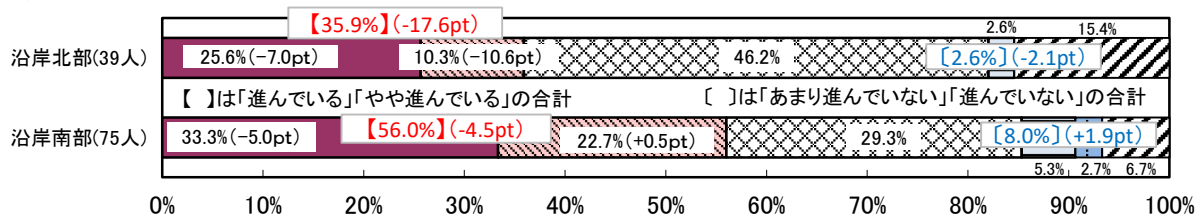


#### ② 直近1年間(おおむねR6年1月からR6年12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( ) 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆震災からの再建は既に完了しており、今後については人口減少への対応にもっと目を向けるべきだと思う。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆震災後13年以上が経過し、被災者の生活もほぼ回復したと感じる。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆運動会やお祭りが開催され、地域行事も再開されコミュニティ活動が元に戻りつつある。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆被災者と言わなくなった。また、再建以外にも新しくお店を出す人が増えたように感じる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆インフラはほぼ復旧し交通網は大きく改善されたと感じる。被災地の状況を正確に伝え、継続的な感心を呼びかけることが大事だと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</li> </ul>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆家の再建をする方々も落ち着き、多くの方は少しずつ前の生活に戻りつつある様に感じる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆被災者の住環境はととのったと思う。この一年はあまり変化ない。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆日々の生活は回復している。地域社会が失われてしまった面は新しい形でも再生されていない所が多い。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> </ul>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆震災後に回復した生活が他の要因(コロナ、物価高騰等)により逆戻りしている部分もあり震災前後での単純比較は難しい。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆物価の高騰などまだ回復しきれていないこの地域に重くのしかかっている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</li> <li>◆被災された方々の雇用問題は数年前に落ち着いた様に感じるが、それ以外の要因で職を失ったり困窮しているご家庭が増えているように思う。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> <li>◆自分としては回復したと感じているが、周囲(被災した方々)と話すこともないので、皆さんがどのように感じているかわからない。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</li> <li>◆震災前に戻ったというよりは、被災後の状況に合わせてそれなりの生活になっている。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</li> </ul>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆三陸沿岸道路の全線開通により利便性が向上した一方で、市内への回遊が少ないと感じる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</li> <li>◆新しいコミュニティ形成が必要と思われるが、取り組みが不十分。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> </ul>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が27.6%と、前回(24.6%)を3.0ポイント上回った。「回復していない」が5.2%と、前回(7.1%)を1.9ポイント下回った。

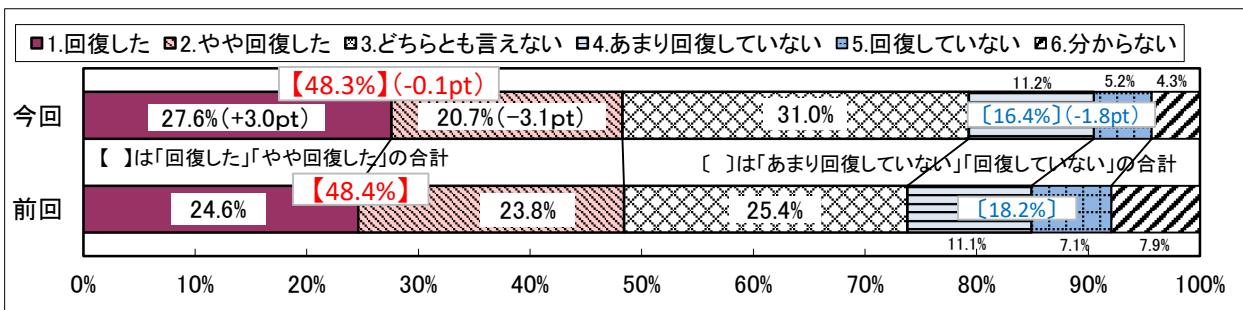
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部は17.9%と、前回(20.9%)を下回った。沿岸南部は32.5%と、前回(26.5%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部は43.5%と、前回(46.5%)を下回った。沿岸南部は50.7%と、前回(49.4%)を上回った。なお、沿岸北部と沿岸南部の差は7.2ポイントと、前回(2.9ポイント)から拡大した。

○直近1年の進捗状況を見ると、「進んだ」が18.1%と、前回(15.3%)を2.8ポイント上回った。「進んだ」「やや進んだ」の合計は31.9%と、前回(36.3%)を4.4ポイント下回った。

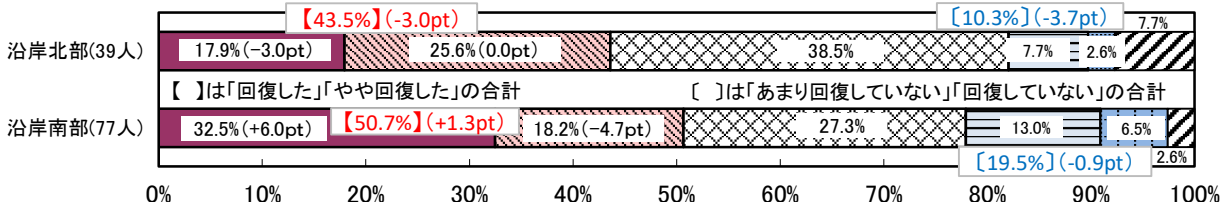
なりわいの再生や交通ネットワークの整備により、物流や人的交流が拡大したことなどから地域経済の回復が進んだとする声がある一方で、人口減少、水産業の不振、復興事業の完了に伴う公共工事の減少や物価高騰など、地域経済が回復しない要因を指摘する声があった。

#### ① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

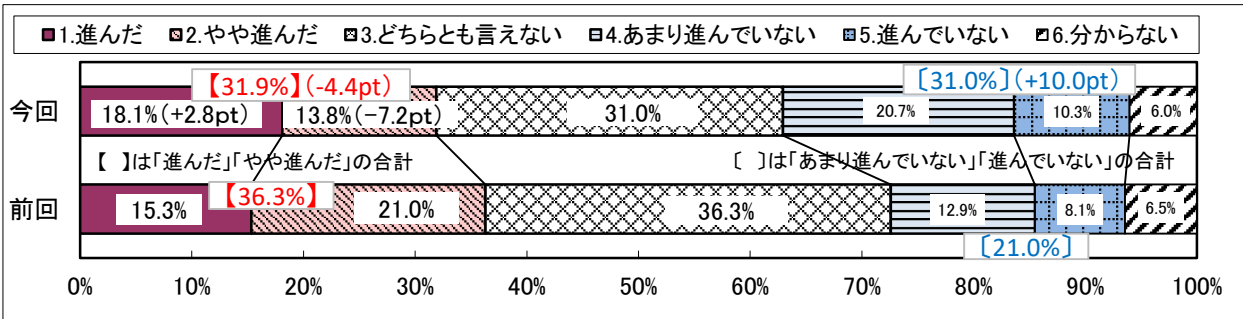


#### 地域別

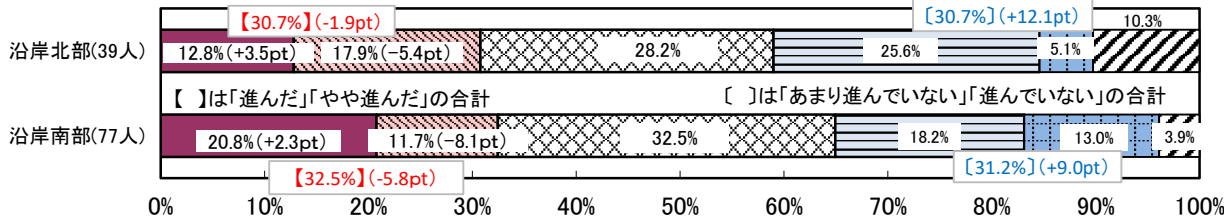


#### ② 直近1年間(おおむねR6年1月からR6年12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( )内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域経済は回復したと思う。しかし、物価の上昇は大きな問題となった。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆地域経済等は確実に回復してきたと思う。まだまだ難しい部分(物価高・景気の悪化等)はあるが、それぞれの分野で知恵を出し合い、地域経済の活性化に寄与していると感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> </ul>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人口減少によるマーケットや事業者の減少も見込まれる部分はあるものの交流人口は増加傾向にあると思われる。資材、燃料、人件費などの高騰が全国的にみられるが、被災前と比べると回復しているように感じる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆店舗の再開、漁業関係の様子を見るとやや回復しているように感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</li> <li>◆外部からの支援に頼らず、地域が自立して発展するためには、雇用創出が大事。人材育成・専門技能の習得や経営者の育成など人材育成の長期的な支援が必要だと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</li> </ul>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆復興特需は既に終息しており、建設業界中心に経営が苦しい先が増加している。嵩上げ地への店舗の移転が進まず、更地が目立つ状況は変わらない。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</li> <li>◆全般的に見て地域経済は回復しつつあると思われるが、水産業の不漁、高齢化が心配の要因であると思われる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆三陸沿岸道路の開通により物流や人的交流が活発になり地域経済の向上に繋がっていると感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</li> <li>◆各イベントやお祭り等の集客が県内、外から多くみられた。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</li> <li>◆地域の基幹産業である水産業が気候変動や福島原発の放流水の影響で振るわず生活が苦しい人が多い。ウニ、アワビとも漁獲高は減少し、単価は半分近くになり大変。また、サケはほとんどとれなくなっている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</li> </ul>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆東日本大震災の影響による地域経済は回復しているが、別の要因(人口減少・コロナ・物価高等)による地域経済等の停滞、減退は感じられる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</li> <li>◆地域内の経済は人口減少、高齢化によって活気がない。この状態が続くと将来どうなるか心配である。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</li> <li>◆コロナ禍での消費の落ち込みで急に下がり、その後、徐々に回復したものの、物価高となり家計が苦しい家庭が増えてきている。給食費等の支払いを遅延することが増えてきた。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> </ul>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆当地区は建設業が多く、復興事業等の公共事業の激減により各企業の体力が疲弊している。浮体式洋上風力発電事業の実現が当地区のみならず、沿岸地域をはじめとする県内経済の活性化に資すると考える。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</li> <li>◆活発な経済活動を感じる事がほとんどない。商業施設内も空き店舗が増えたり品数が少なかったりする。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</li> </ul>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
 教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
 産業・経済・雇用関連：漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」が76.1%と、前回(79.4%)を3.3ポイント下回った。「あまり達成していない」「達成していない」の合計も5.1%と、前回(5.6%)を0.5ポイント下回った。

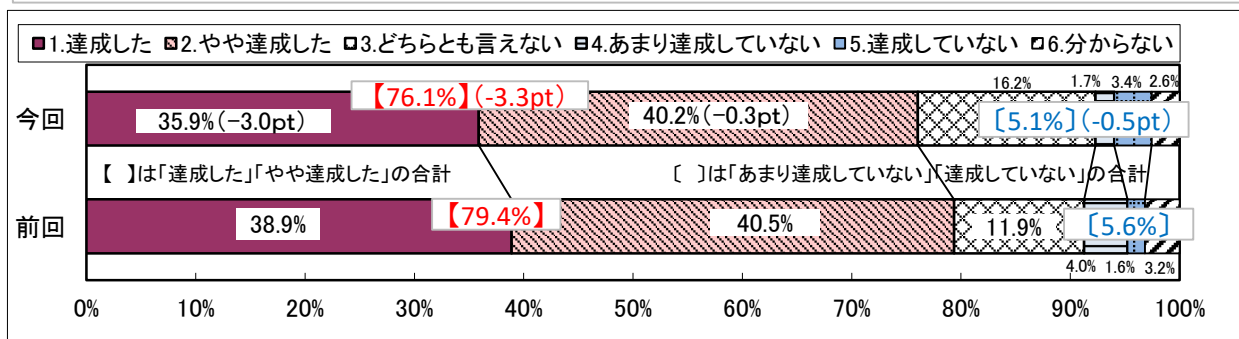
○地域別では、「達成した」が、沿岸北部は25.6%と、前回(23.3%)を上回った。沿岸南部は41.0%と、前回(47.0%)を下回った。「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部は69.2%、沿岸南部は79.5%と、それぞれ前回(北部72.1% 南部83.1%)を下回った。なお、沿岸北部と沿岸南部の差は10.3ポイントと、前回(11.0ポイント)から縮小した。

○直近1年間の進捗状況を見ると、「進んでいる」が24.8%と、前回(34.1%)を9.3ポイント下回った。「進んでいる」「やや進んでいる」の合計も60.7%と、前回(69.9%)を9.2ポイント下回った。

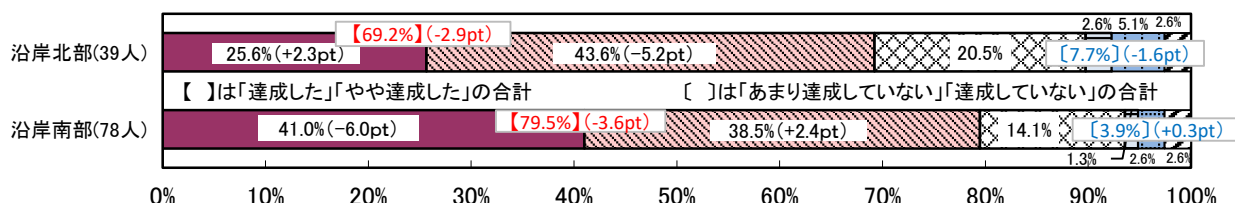
防潮堤などのハード整備や継続的な避難訓練の実施などのソフト面の取組等により、災害に強い安全なまちづくりが進んだことを実感する声があった。その一方で、年数の経過による風化への懸念や、将来の地震・津波対策の重要性を指摘する声があった。

#### ① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

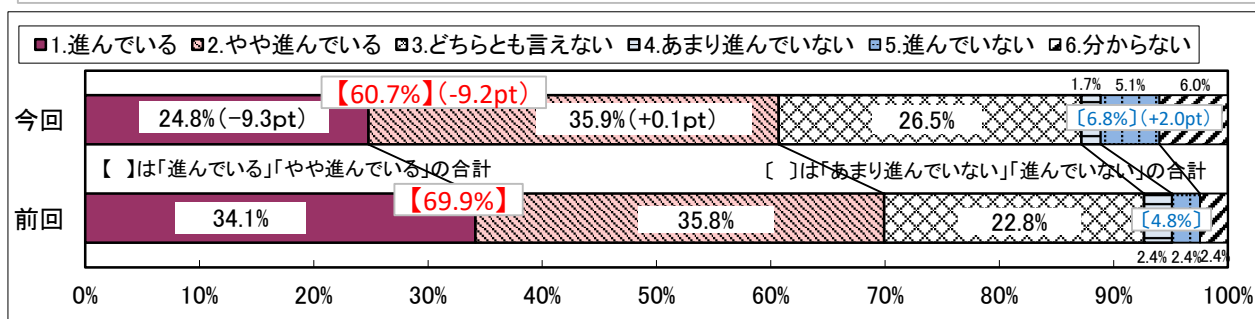


#### 地域別

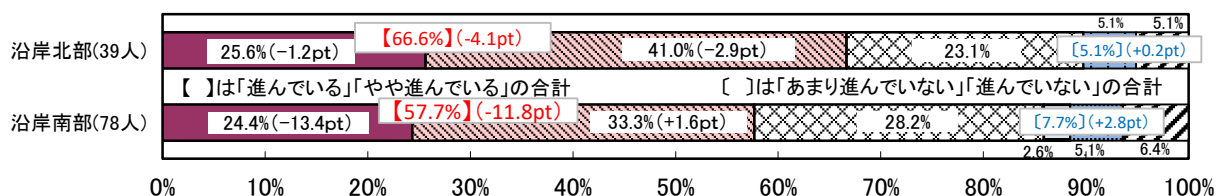


#### ② 直近1年間(おおむねR6年1月からR6年12月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( )内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆震災から13年経過し、ハード面では防潮堤などの整備は完了しているが、今後大きな震災が起きた時に、今のもので防ぎきれぬかは誰も分からない事だと思う。ソフト面では年数が経つにつれて、住民の意識が薄れていく懸念があり、安全確保の機運を継続していく必要がある。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆高校生による震災学習列車での学びや津波伝承館への訪問、津波碑をバスで巡るガイドツアーの開催。安全なまちづくりに対する学習をしっかりとしていると感じる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆震災前よりも災害に強いまちづくりは進んでいる。しかし、予期せぬ災害が毎年発生しているので避難の適切な仕方を理解し、命を守る行動を全員ができるように広報活動、避難訓練が必要だ。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆内陸に比べると津波や防災に対する意識が高いと感じる。津波対策や交通の整備は進んでおり、安全面でも充実している感じがある。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆豪雨災害の復旧工事等、スピード感をもって取り組んでいる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆ハード面は進んでいると思われるが、震災で亡くなった方の祈りの場所や子供の遊び場等が未整備で早期の完成を期待している。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆ハード面に関しては達成したと思う。学校での防災学習や訓練等も行われているが、その学びや経験をつなぐ活動についてはこれからの課題であると感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆自治体の避難訓練に参加しているが、思った以上に参加者が多く、住民の災害意識が進んでいるように思えた。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆独居高齢者や高齢者世帯の避難行動要支援者名簿の整備が進んでいる。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆震災関係の工事は終了したと思われる。災害に強い安全な地域にするため高台に避難所の設置が必要と思われる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤の整備や避難訓練など安全な町づくりがなされてきた。津波を経験していない若い世代が増えてきている。その世代への防災教育の重要性を実感させていきたい。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆ハード事業は防潮堤などを含めて殆どの工事は終了しており、多くの村民ある程度の安心感を持っている。しかし、その安心感が油断につながることはないような、そして時間の経過とともに危機感が薄れてきているので避難意識の心掛けが益々大事になると思う。一年間の進捗状況に限れば、全く変化がないと思う。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆防災に力を入れていると感じるのはソフト面。ハード面は何か起こってからでないと対応してもらえない印象がぬぐえない。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆観光客や児童の避難について、町や道のたてふだや案内板が少なく、外国語の表示も少ない。分かりやすく一目で理解し、状況に応じてすぐに行動できるようなまちづくりや避難経路・表示等をもっと進めるべきだと感じている。徒歩・自転車がが増えてきているので、付随して取り組みをしなければと思う。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

＜動向判断指数(DI)＞

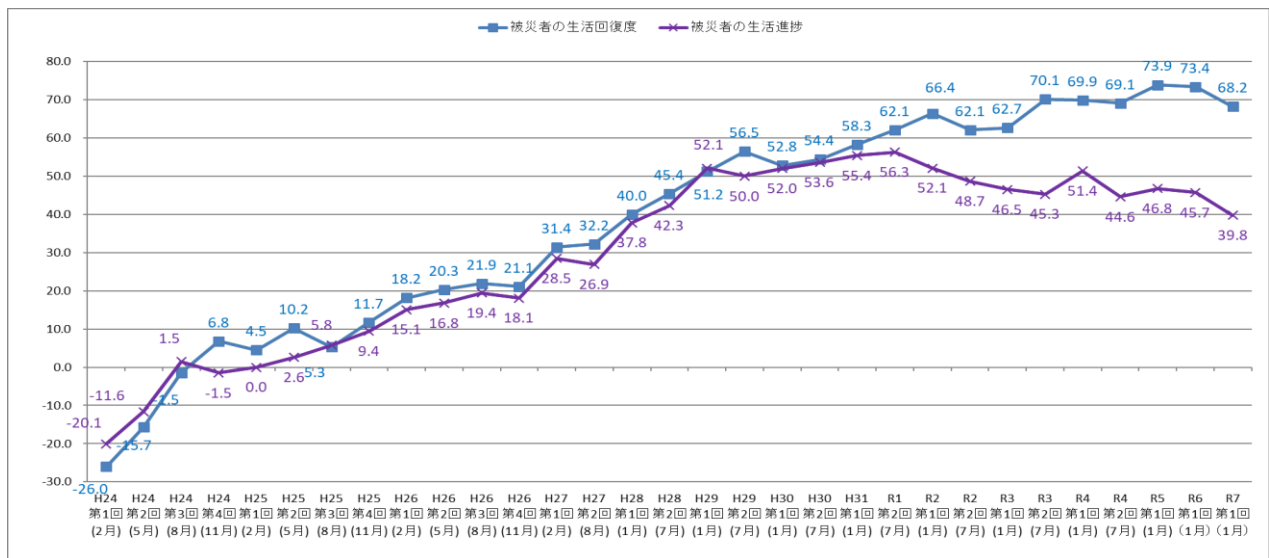
掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数（D I）について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数（D I）は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数 (D I)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

（注）100に近づくほど、「回復した」の回答割合が高い。

（注）上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる（他の選択肢についても同様）。

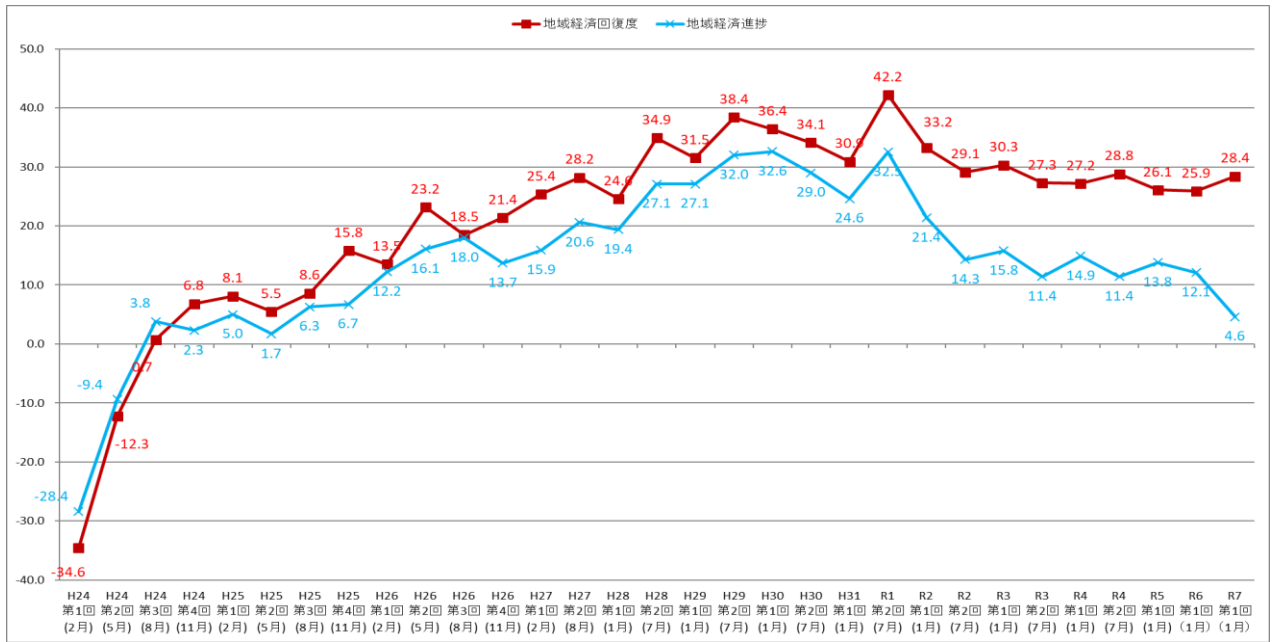
【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は直近1年(今回であれば、おおむねR6年1月～R6年12月)を指す。

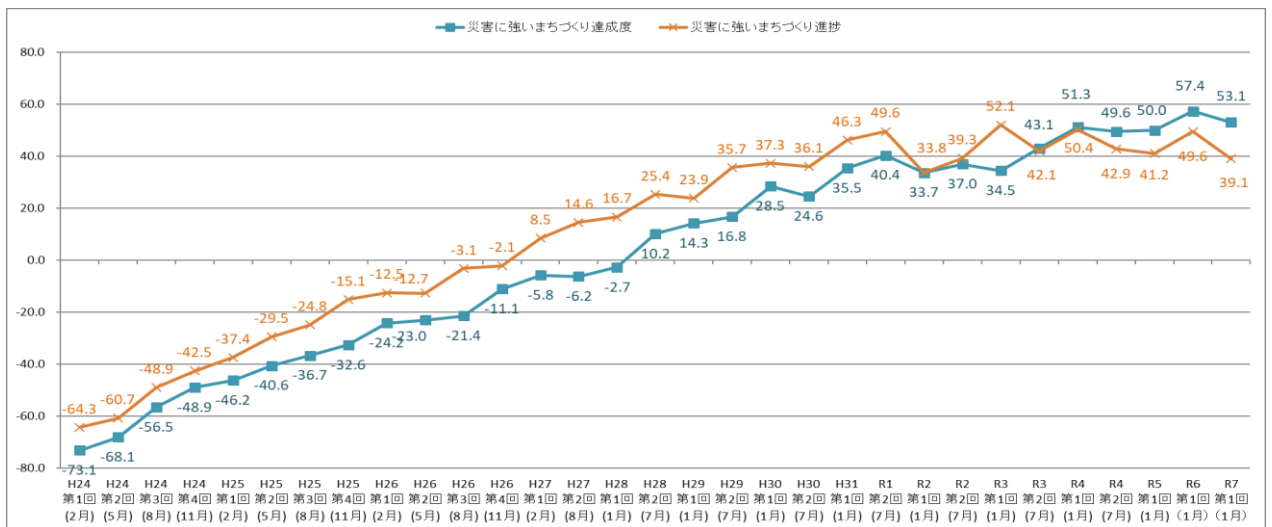


### 【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は、直近1年(今回であれば、おおむねR6年1月～R6年12月)を指す。

### 【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は直近1年(今回であれば、おおむねR6年1月～R6年12月)を指す。

令和7年「いわて復興ウォッチャー調査」  
結果報告

発行

令和7年2月21日

岩手県

復興防災部 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6935

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363>